

河津川水系河川整備基本方針の概要

概要

当該水系は、天城連山の影響で降雨が集中する地理的特徴で、地形上危険な低平地に人口密集地が形成され、一度洪水が起こると甚大な被害となる可能性がある。また、堤防上の河津桜並木は、河川区域内における植樹基準を満足していないものが8割程度あり、洪水時に堤防の強度低下等を引き起こす原因となりうる。一方、河津桜は重要な観光資源となっており、河川空間は人々のふれあいの場として利用もされていることから、**行政と地域住民が一体となって河川整備(治水・環境・防災)を進めていく**ために、当該水系の河川整備基本方針を策定する。

- 流域にある7つの温泉郷や山川海滝という自然環境に恵まれている。
- 沿川の河津桜まつりには県内外から多くの観光客が訪れる。
- 文化財や天然記念物が点在している。

河川の諸元
(河津川水系)
⇒河川延長:9.5km・流域面積:80.80km²

河川の状況



平成3年9月(豪雨)
土石流による被災状況
(河津谷津川)



昭和51年7月(豪雨と台風9号)
河津町峰付近の浸水状況
(河津川)



洪水被害のポテンシャルが高い



植樹基準を満たしていない

河川・流域の現状と課題

- 流域住民の約7割が暮らす平地部は三方を山、南東部を相模湾に囲まれた低平地となっている。
- 天城観測所における年平均降水量は、全国平均の約1500mmに対して約3100mmと2倍以上も多い。
- 近年、全国的に温暖化傾向による集中豪雨が増加しており、河津川流域においても、50mm/hr雨量の発生回数が増加している。
- 河口から4kmまでは、堤防が築堤形状で、洪水時の水位が宅地地盤高よりも高く、洪水被害のポテンシャルが高い。
- 河口から4kmまでの流下能力は概ね1/5確率の安全度を有する。(余裕高考慮で)
- 河津川堤防上の河津桜並木は、河津町の重要な観光資源となっている一方、河川区域内における植樹基準を満足していないものが8割程度存在する。
- 老年(65歳以上)人口の増加がみられ、災害時の避難弱者割合が増加している。
- 静岡県第3次地震被害想定で、河津川河口部ではTP.4.5mの津波高が想定されており、河口部の堤防はTP.4.5mよりも低い部分が存在する。 ほか

河川整備の基本理念

着眼点

- ① **生命の安全を確保する川づくり**
⇒下流部の被害ポテンシャルが高い
⇒峰橋より下流区間での破堤により、氾濫流が市街地へ流下拡散する
⇒降雨が集中する地理的特徴
⇒温暖化傾向による集中豪雨の増加
⇒河津川本川の部分的な流下能力不足
- ② **自然・景観に配慮した川づくり**
⇒生活廃水・温泉排水の河川への流入による水質悪化の懸念
⇒貴重種生息による豊かな環境
⇒河川横断工作物による魚類等の縦断移動の障害

- ① **河津桜と治水面の課題を両立・適正化した川づくり**
⇒堤防上の植樹基準を満たしていない河津桜
- ③ **人々にとって親しみやすい水辺空間を維持・創出する**
⇒親水施設により人々にとって自然や川に親しむことのできる水辺空間が創出されている
⇒河津川は清流でありアユ釣のメッカである

【基本理念の骨子】

流域や河川で形成される、海・山・川・滝・温泉、さらに、河津町の重要な観光資源である河津桜等の地域特性に配慮し、治水・利水・環境の両立を目指した、総合的な治水対策を推進する。

さらに、河津桜に対して、桜管理者や関係機関、地域住民と協働で、その適正化に努めるとともに、流域に残された諸問題を解決するためには、関係者の理解と協力が不可欠であることから、地域住民や関係機関との協働による河川整備に努める。

基本理念

【①人が安全かつ安心して暮らせる川づくり】
想定される降雨に対し、洪水を安全に流下させるため、治水施設整備の推進とともに、河津桜に対して、桜管理者や関係機関、地域住民と協働で適正化に努める。

また、災害による人的被害を軽減するため、浸水想定区域図やハザードマップの作成、雨量や水位、災害関連情報を迅速かつ正確に提供、かつ地域住民への周知徹底を図ることで、地域との連携を強化し、防災力の向上を目指し、「人々が安全かつ安心して暮らせる川づくり」に努める。

【②豊かな自然・景観を育む川づくり】
伊豆半島を代表する観光地であり、重要な観光資源である河津桜並木や温泉施設、海・山・川・滝等の地域特性に配慮し、今後も良好な景観と自然環境豊かな川として守り育み、誰もが河川の魅力を満喫でき、動植物にとっても良好な生息・生育の場となるよう、「豊かな自然・景観を育む川づくり」に努める。

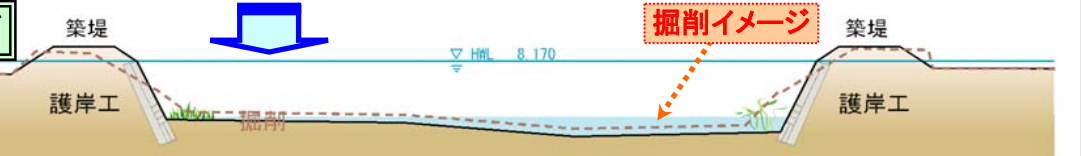
【③川と人とのふれあいを創出する川づくり】
人々にとって身近で親しみやすい水辺空間の維持・創出や、アユが行き来する清流を保全し、人々の集う空間を保全・創出することで、川と人、人と人とのふれあいを通して、河川に対する愛護の精神が地域で受け継がれ育まれていくよう、良好な地域のネットワーク、コミュニティの強化に努め、「川と人とのふれあいを創出する川づくり」に努める。

河川整備の基本方針

- 【①洪水、高潮等による災害の発生防止または軽減(抜粋)】
流域面積、流域内人口、想定氾濫区域面積・人口・資産額の指標により概ね50年に1回発生する洪水に対して河川整備を行う。
高潮や津波から、生命・財産の安全を確保するため治水施設を整備する。
過去に斜面崩壊による土砂や流木による河道埋塞が発生していることから、砂防・森林管理者と連携をとり、流域一体となった治水対策を推進する。
堤防上の河津桜と共存するため、河津桜維持管理指針、行動計画に基づき、関係機関と連携した管理と適正化を目指す。
- 【②河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全(抜粋)】
自然環境・人々の暮らし・景観等に配慮し、治水・利水・環境との調和を図り、自然環境の再生・保全・創出に努める。
河津桜と河津桜並木の織りなす良好な景観、身近な川としての親しみある景観との調和を図り、良好なまちづくりの一端を担う整備を実施する。
下水道関連施設の整備で水質の改善を働きかける。
学識経験者、漁協関係者等との連携を基に、関係者が目指すべき河川環境についての共通の認識を持ちながら整備に取り組む。
- 【③河川の維持管理(抜粋)】
河川の多面的機能が発揮できるよう、住民や関係機関と連携したモニタリングや点検により適切な維持管理と正常化を目指す。
河津桜による堤防の強度低下や洪水時の流下阻害に対し、定期的な点検を実施し、必要な補修・修繕を行う等、堤防や護岸の適切な維持管理に努める。
沿川の地域整備と連携するなど、関係機関・住民で適切な協働管理を行う。
- 【④地域との連携と地域発展(抜粋)】
水辺空間の適切な保全や更なる創出により、住民や関係機関との協働による貴重なオープンスペースとして河川整備を推進する。
河津桜や豊かな自然を未来に受け継いでいくためには、地域住民や関係機関との連携が必要不可欠であり、河川愛護の精神が地域で受け継がれ育まれていくよう、河川に関する情報を幅広く提供する。

河川整備のイメージ

※河床掘削により計画流下断面を確保する(河津桜と共存を図り)



【平面計画】
基本的に河道拡幅は実施しない
現況河道法線を踏襲

【横断計画】
河床掘削形状は、みお筋・淵を考慮して、極力現況河床をスライドさせる
既存の巨石等は再利用する
護岸は1:0.5とし、河床幅を極力確保する